

事例発表 ②

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために

～総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援～



画像引用元: ©寒川総合図書館 <https://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp/tosyo/>

こんにちは、寒川町社会教育委員のXX(名前)です。

これから私たち、図書館部会で協議した内容について、発表させていただきます。

はじめに、子どもの読書活動は、考える力、感じる力、想像する力、表現する力などを身に付ける上で極めて重要であることから、全ての子どもたちが楽しく自主的に読書に親しむことのできる環境を整備する必要があります。

それらを踏まえて、協議テーマは、「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために～総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援～」と、しました。

図書館部会でこの協議を平成 30 年度～令和 3 年度までの4年間で行いましたが、令和2年度、3年度は残念ながらコロナ禍でのイベントの中止・縮小などを受けて、後半は思うように活動できませんでした。令和 4 年度から少しずつ活動が再開しておりますので、現在の状況も踏まえて発表させていただきます。

1.テーマの選定理由



©寒川総合図書館

2

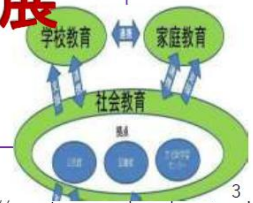
本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために、町や図書館、また地域として何ができるか、何をすべきかなどについて、図書館部会で協議を行いました。

1. テーマの選定理由

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために
何ができるか、何をすべきか

背景・・

- ・家庭教育：多様化する家庭環境
- ・社会教育：地域社会の持続的发展
- ・学校教育：読書活動の推進



画像引用元：寒川の社会教育<http://www.town.samukawa.kanagawa.jp/>

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠くことのできないものです。

しかし、我が国における子どもの読書離れが言われて久しく、また本町もその例外ではありません。

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために次の3点を前提条件としました。

- 家庭教育の向上に資するため、一体となって子どもの読書活動を推進する
- 学校や地域と連携する
- 子どもたちが読書を楽しみ、資料を活用した調べ学習に取り組むなどを通して、子どもたちの豊かな学びを応援する図書館を目指す

その結果、背景として、

- ・家庭教育：多様化する家庭環境
- ・社会教育：地域社会の持続的发展
- ・学校教育：読書活動の推進

があるとし、これらについて、どのような取り組みができるか考えました。

2.現状と課題・取り組み



©寒川総合図書館

4

2.現状と課題・取り組み

2-1.子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくり

・家庭教育：多様化する家庭環境

小学校低学年までは、父・母、
祖父・祖母に連れられての来館が多い



5

はじめに、「家庭教育：多様化する家庭環境」については、子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくりに注目しました。

本が大好きな寒川の子どもたちを育てる最初の一步は、親が話してくれる語りや絵本だと思っています。

幼少期から親子で本に親しむことで、家庭教育は充実し、成長してからも読書習慣や図書館に足を運ぶことに繋がります。そのために、幼少期から本の魅力を伝える活動は、重要です。調査したところ、小学校低学年までは、両親、祖父・母に連れられての来館が多いことから、大人が来館しやすい工夫も必要だと分かりました。つまり、連れてくる側の、来るきっかけ作りが欲しくなりました。

[未就学児や大人への図書館に来館する機会を多く作ること]

図書館に興味を持って足を運んでもらうため、毎週土曜日のおはなし会や、2週間ごとにテーマを設けた絵本の企画展示などイベントを積極的に取り入れました。

また、図書館で来館してくれることを待つだけでなく、子育て支援センターへ出向くなど、図書館の外で本の魅力を伝える活動も重要であり課題です。

2.現状と課題・取り組み

2-2. 図書館のイベント(子ども読書推進事業)

・社会教育:地域社会の持続的発展

- ◆ 図書館まつり
- ◆ わくわく読書マラソン



6

「社会教育:地域社会の持続的発展」については、図書館では定期的に子どもを対象としたイベント(子ども読書推進事業)を行っています。

[子どもたちが図書館へ足を運ぶ機会づくり]とリンクするため、イベントに取り組むにあたって、図書館部会では次のような意見が出ました。

- ターゲットを明確にする:イベント対象は、乳幼児、小、中、高校生など
- イベントの申し込み日に配慮する:子ども対象のイベントの申込日は土日にするなどを考慮しました。平日の受付開始では、働く保護者が対応できないとの配慮です。

図書館の子ども対象のイベントとして、「図書館まつり」と「わくわく読書マラソン」の事例を2つ紹介します。

～図書館まつり～紹介



具体的なイベントとして、図書館まつりを紹介します。平成 30 年度に初めて開催した図書館まつりは、図書館内で体験型のイベントを開催し、図書館に親しんでももらいました。

主な取り組み(コーナー)としては、

- ・図書館コンサート
- ・ひと棚図書館
- ・ハロウィン仮装写真展
- ・オリジナル読書通帳づくりワークショップ
- ・ビンゴ大会
- ・おりがみ壁画
- ・青空おはなし会

令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止しましたが、令和4年度は 10 月 30 日(日曜日)に3年ぶりに開催し、通常の土日来館者の約 2 倍となる 2387 人の来館者がありました。図書館まつりはイベントとして成功しましたが、この集客が今後の図書館利用にどう結び付くか、注目しているところです。

～わくわく読書マラソン～紹介

夏休みの子どもの読書を支える

読む楽しみ

本に触れる体験や
読書の楽しみを感じる

- ・ スタンプを集める楽しみ
- ・ 集めてプレゼントで達成感

習慣化

1ヶ月間読書する習慣

- ・ たくさんの本を読む
じっくり読む
- ・ 読書を記録する

共有

面白かった・感動した本を
おすすめする

- ・ 同じ世代へ本を薦める
- ・ 薦められた本を
読んでみる

©寒川総合図書館

8

二つ目は、わくわく読書マラソンです。夏休みの子どもの読書を支える活動です。
ねらいは三つ。

[読む楽しみ] 本に触れる体験や読書の楽しみを感じてほしい

[習慣化] 夏休み中続けることで、読書の習慣化の定着

[共有] 子ども同士の目線による、おすすめ本の発信・共有

わくわく読書マラソンは非常に良い企画で、全年齢を対象にすべきとの意見から、大人版の“わくわく読書マラソン”を検討しています。

また、図書館の認知、図書館利用の促進について、現在の取組で足りているか、に注視していくところです。

2.現状と課題・取り組み

2-3.読み聞かせ活動(連携事業)

- ・家庭教育:多様化する家庭環境
 - ◆行政との連携
- ・社会教育:地域社会の持続的発展
 - ◆公民館との連携
- ・学校教育:読書活動の推進
 - ◆学校との連携

9

次に、「読み聞かせ活動(連携事業)」について、です。

- ・家庭教育では、行政と連携した0歳児ブックスタートに、
- ・社会教育では、公民館と連携した、子どものおはなし会と、
- ・そして学校教育、学校との連携では、小学校での読み聞かせに関わることが分かりました。

読み聞かせ活動(連携事業)を通じて、背景にある「多様化する家庭環境」、「地域社会の持続的発展」、「読書活動の推進」について紹介します。

～0歳児(ブックスタート)～紹介

読み聞かせ活動(連携事業)
家庭教育: 多様化する家庭環境

行政との連携
・0歳児(ブックスタート)

図書館: 赤ちゃん、幼児向け
・おひざにだっこ
・おはなし会



引用元: 広報さむかわ 2009.12月号より

©寒川町

10

まず、「家庭教育: 多様化する家庭環境」ですが、家庭教育は大変重要で、それらを支援する取組として、0歳児ブックスタートや図書館のおはなし会などがあります。親もブックスタートで絵本に出会うことができますし、毎月のおはなし会などを通して本に触れる習慣に繋がっていきます。

ブックスタートとは、絵本を介して赤ちゃんの時から本に接してもらい、子どもの言語能力と豊かな心を育てよう、という運動です。1992年にイギリスで生まれ、日本でも2001年(平成13年)4月から本格導入しています。2018年(平成30年)の調査では、実施自治体は1036市区町村にのぼります。

寒川町では2007年(平成19年)12月から開始し、7ヶ月児健診の時に実施しています。地域に生まれた赤ちゃんと保護者を対象に、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動は、子育て支援課と連携することによる新しい図書館利用者の開拓に繋げることができました。

図書館では、赤ちゃんや幼児向けに、毎月読み聞かせ事業を行っております。

子どもの読書活動については、幼児期からの読書習慣の定着が課題であり、読書環境の整備と読書機会の充実を図る必要があります。

～公民館との連携～紹介

読み聞かせ活動(連携事業)

社会教育:地域社会の持続的発展

公民館との連携

各公民館に…

- ・図書館を併設
- ・子どものおはなし会開催



©寒川総合図書館

続いて、「読み聞かせ活動(連携事業)」での公民館との連携ですが、寒川町では、総合図書館だけでなく、北部公民館、南部公民館に図書館分室を併設しており、公民館事業として定期的に子どものおはなし会を開催しています。

また、総合図書館までは遠い北部と南部地区に図書館分室が配置されているので、子どもたちには身近な図書館となっています。授業で学んだことをその場で調べられる利点もあります。

課題としては、ボランティアの育成があります。0歳児に本を親しませるブックスタートや、公民館や学校での読み聞かせ活動と連携しながら、図書館が中心となり、読み聞かせボランティアの育成を促進する取組が必要です。

なお、公民館でのおはなし会について調査すると、総合図書館と比べて北部公民館、南部公民館の参加者数が少ないです。総合図書館は設備や蔵書数、駐車場が多い利点もありますが、それだけでなく、伝えられる図書館のノウハウが大きく影響していると思われます。

これらを各公民館にも公開する、また、図書館と公民館、それぞれの読み聞かせボランティアの交流を図ることも有効だと考えます。

～小学校での読み聞かせ～紹介

読み聞かせ活動(連携事業) 学校教育：読書活動の推進

学校との連携 ・小学校での読み聞かせ

図書館：展示
“教科書にでてくるお話し”



中学校では、生徒と先生が静かに本を読む 10 分間の朝の読書が定着しています。小学校では、読み聞かせ活動が行われています。そして、ボランティアが学校の読み聞かせ活動に参加しています。

学校での読み聞かせ活動から、多くの本と出会い、子どもたちが自主的に図書館に行く、図書館に調べに行くということへ繋げてほしいと考えていますが、今の中学生は「調べ学習＝タブレットで調べる」との認識になっている子が多いようです。辞書で調べると他の言葉も覚えられるように、本で調べることの良さを体験させていく必要性が大切だと伝えられるとよいかもしれません。

総合図書館では小学校との連携事業として、夏休みの読書推進活動としての「わくわく読書マラソン」や展示企画で、各学年の国語の教科書で取り上げられている「教科書に出てくるお話し」のテーマ展示を行い、図書館分室へも巡回展示をしました。

課題として、学校図書館の活性化のため、学校図書館を総合図書館の分室にするといった発想の転換も必要、という意見もありました。

学校では司書教諭や図書委員会の担当教員が、読書指導員や図書委員と連携をとって、児童生徒が図書に親しむ工夫をしています。そのようなところを充実、強化していければ、学校だけではなく、図書館の果たす役割も非常に大きくなるのではないかと思います。

また、学校で読み聞かせ活動をしているボランティアの人々の交流や相談できる体制を総合図書館が担^{にな}えると、より良いと考えます。

3.事例紹介



©寒川総合図書館

13

ここからは、ただいま説明してきました現状と課題、取組から、
[学校と図書館の連携]について事例をもって紹介させていただきます。

3.事例紹介

学校と図書館の連携

→児童・生徒が図書に親しむ工夫

さむかわジュニア司書制度 目的と活動内容



14

児童・生徒(こどもたち)が図書に親しむ事例として、
「さむかわジュニア司書制度」の紹介をいたします。

3.事例紹介:さむかわジュニア司書制度

子どもが 主役

目的

- ・ 楽しみながら図書館活用術を学ぶ
 - ・ 自分の居場所で発信する
 - ・ 情報の拠点として図書館を活用できる、自立した大人へ！
-
- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 図書館の使い方を学習・体験・ 司書の活動を学習・体験 |  | <ul style="list-style-type: none">・ 図書館を活用できる・ 発見の楽しさから発信へ・ 学校や地域での読書活動展開を担える |
|---|---|---|

15

©寒川総合図書館

さむかわジュニア司書制度は、平成 28 年 7 月に小学 5 年・6 年生、10 名で、寒川総合図書館が県内で初めて実施しました。

これ以降は平成 30 年度、令和 2 年度、令和 4 年度、令和 5 年度に実施しています。令和5年度から対象を小学校4年生から中学 2 年生までの児童生徒としました。

さむかわジュニア司書制度の目的は、

- 子どもが図書館の仕事に触れながら、司書の仕事や図書館の仕組みを理解し、図書館の効率的利用方法や本を人に紹介する。
- スキルを身につけることによって、人と本を結びつける読書推進のリーダー役として地域で活躍できるよう育成する。

などです。

ジュニア司書制度では、図書館を利用しているだけでは見えない部分や、そこで働く司書の仕事についても楽しく学んでもらいます。

--背景--

*アンドリュー・デュアーさんによる「子ども司書制度」では、本を読むきっかけで最も影響を受けるのは親や周囲の大人よりも、自分と同じ年齢の子供たち(友達だった)と報告されています。

10代の子どもにとって、友だちとの関係は大変重要であり、小学生の場合、それは先生と司書が作るきっかけの2倍以上。中高生では、その差は6~7倍とされます。子供同士の影響力は無視できないということが明らかであることから、ジュニア司書制度は、子供同士の力を活かして読書への関心を高めるために有効だと言えます。

*アンドリュー・デュアー：東海学院大学教授：子ども司書推進プロジェクト代表

3.事例紹介:さむかわジュニア司書制度

4つの講座

1. 図書館ってどんなところ？
2. 分類・レファレンス
3. 展示コーナーをつくる
4. 資料の装備・読み聞かせ

2つの実習

1. ミニビブリオバトルと文書館探検
2. お薦め本の選書とポップづくり

講座＋実習
終了

認定

©寒川総合図書館

16

ジュニア司書として認定されるためには、4つの講座を受け、2つの実習を体験します。
講座と実習が終了したら、ジュニア司書認定です。



ジュニア司書講座「座学」



ジュニア司書講座「配架」



ジュニア司書講座「ブッカーかけ」



ジュニア司書講座「選書」



ジュニア司書講座「おすすめ本紹介」



ジュニア司書講座「おはなし会」

こちらは、受講の様子です。令和5年度の講座内容は講座4回、実習3回を実施しました。講座の第1回は「図書館と図書館司書について」、第2回「本のしくみと装備について」、第3回「分類と検索」、第4回「レファレンス・相互貸借」
実習は、「展示、ブックキャラバンでの選書体験」、「ミニビブリオバトル」「読み聞かせ」などを学びました。

--用語解説--

アイスブレイキング：講座前に行う簡単なゲームや本題に入る前に行う雑談など

ミニビブリオバトル：読んで面白いと思った本を3分間で紹介する(公式では5分間)

----[補足] ジュニア司書制度-----

小学校高学年から中学生までの児童生徒を対象に、これまで平成28年度、30年度、令和2年度に実施しました。ジュニア司書認定者による活動は概ね毎月実施していますが、学年が上がることにより、活動卒業となるため、現在活動できる認定者が少なくなってきました。

さむかわジュニア司書

- ・図書館の使い方を学習・体験
- ・司書の活動を学習・体験



- ・図書館を活用できる
- ・発見の楽しさから発信へ
- ・学校や地域での読書活動展開を担える

認定式



©寒川総合図書館

18

認定後のさむかわジュニア司書に期待することですが、自発的に…。

- ・図書館を活用できる
 - ・発見の楽しさから発信へ
 - ・学校や地域での読書活動展開^{にな}を担える
- など、となります。

認定後の活動

1. クリスマス展示コーナー
2. 新春福袋
3. 配架・読書通帳
4. 図書館通信
5. 展示：「ジュニア司書が薦める一冊」

ジュニア司書の成長にあわせて活動



- ・ イベントへの参加
- ・ 運営補助

©寒川総合図書館

19

ジュニア司書認定後は、図書館のイベント運営に参加することができます。

また、一度認定されたジュニア司書には、定期的な活動としてイベントの参加や運営補助などを実施しています。

- お話し会での読み聞かせ準備と当日の読み聞かせ
- 色々なテーマで本を選定し、中身が見えないように福袋として貸し出し
- こども映画会の受付補助

実際のジュニア司書活動の一例ですが、

- ジュニア司書で YA(ヤングアダルト)展示の本の選定と紹介ポップづくりを実施したら、常に貸出状態となる本が多く、効果が大きかった。
- ジュニア司書にブックキャラバンでの選書に参加してもらい、購入資料の絞り込みにも携わってもらったが、選書した本は貸出状況も良い。

などの、ジュニア司書効果がありました。

4.まとめ



©寒川総合図書館

20

4.まとめ

活動を振り返って...

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために
何ができるか、何をすべきか

活動をより良くするため...

発展的改善点



21

画像引用元: 寒川町 <http://www.town.samukawa.kanagawa.jp/kurashi/bunka/1361340280811.html>

活動を振り返って...

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために、何ができるか、何をすべきか、まとめ
に変えて、この活動をより良くするための今後の充実すべき点（発展的改善点）について
お伝えします。

4.まとめ:今後の発展的改善点

活動を振り返って...

児童・生徒が図書により親しむために

4つの発展的改善点が見つかりました

- 1) 図書館ボランティアの育成
- 2) 学校図書 **館**との連携
- 3) 地域の多様な主体との連携・共同
- 4) 図書館講座の開催

22

総合的に活動を振り返ってみると、4つの発展的改善点が見つかりました。

1) 図書館ボランティアの育成

町民が身につけた知識や経験が生かせるよう、ボランティア活動の充実です。地域の読書活動推進の担い手として、子どもの読書活動や図書館サービスを支援するボランティアの育成を行います。

2) 学校図書館との連携

子どもの読書活動を支援するため、学校と連携した取組の充実です。

学校と連携し、子どもの読書活動の重要性に関する普及啓発を通じ、子どもの読書活動を推進します。

3) 地域の多様な主体との連携・共同

図書館が学習活動や情報発信の機能を高め、地域、学校、企業など多様な主体との連携を目指します。多様な主体との連携によって、雑誌スポンサー制度等の地域に根ざした図書館活動の充実を図ります。

4) 図書館講座の開催

図書館は町民の学びを支える施設です、町民の図書館利用促進のための取り組みを推進します。町民の図書館利用促進を図るため、読書会、研究会、講演会、鑑賞会、映写会、講座等の実施を充実します。

子どもの頃の読書体験が 本のある豊かな人生につながります

赤ちゃん

- ・おひざにだっこ
- ・ブックスタート

幼児

- ・おはなし会
- ・ぬいぐるみ
- ・おりがみ

小中学生

- ・ジュニア司書
- ・読書マラソン

大人

本とともに
豊かな人生



23

子どもたちの読書活動推進のためには、幼い頃から読書に親しむ機会や環境が必要です。

小さいころから読書に親しむことは、子どもの成長や発達に重要な役割を果たし、その体験から大人になってからも学び続けることが可能です。

私たちの思いは…

「子どもの頃の読書体験が本のある豊かな人生につがる」ということです。

私たちの活動が、その一助となれるのであれば、幸せです。

また、総合図書館は学びを支える地域の情報拠点として、学習活動や情報発信の機能を高め、家庭・地域社会・学校などとの連携とともに、資料の充実と利用環境の整備、そしてボランティア活動の充実などを、より図る必要があります。

本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために

～総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援～

ご清聴ありがとうございました

寒川町社会教育委員会 図書館部会

仲田 政一 (部会長)

倉本 佳子 (副部会長)

大野 郁子

小坂 璃奈

澤田 けい子

画像引用元：©寒川総合図書館

©寒川町

寒川の社会教育 <http://www.town.samukawa.kanagawa.jp/>

寒川総合図書館 <https://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp/tosyo/>

24

協議テーマである「本が大好きな寒川の子どもたちを育てるために～総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援～」では、取り組むべき課題として、

- 家庭では子どもの読書活動の推進、
- 学校では学校図書館への支援、中学・高校生の利用者に対する図書館サービスの充実、
- 地域社会では読書活動を推進するための個人、団体との連携や図書館からの情報発信の充実がありました。

また、図書館へ足を運ばない、読み聞かせや読書習慣のない子育て中の家庭に向けて、子育て支援センターや学校など、図書館以外の場で本に触れる機会を作るといった 総合図書館のアウトリーチ活動の推進も望まれます。

さらには、学校図書館を総合図書館の分室にしてしましましょう、という発想の転換も上がりました。

活動期間内の協議で出された様々な意見は、現実的には実行が難しいものもありますが、今後の総合図書館の事業計画に反映されていくことを、期待するものがあります。

そして私たち社会教育委員は、家庭・地域社会・学校をつなぐコーディネーターとして、自覚をもって改めて取組みを続けてまいります。

これをもちまして、寒川町社会教育委員 図書館部会からの発表を終わります。最後までお聞きくださり、ありがとうございました。